

新・宮城の将来ビジョンシリーズ

2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~  
NPO法人ベビースマイル石巻

4 新型コロナウイルス感染症に関する  
お知らせ

特集1

6 おかげさまで仙台港は開港50周年を  
迎えました

特集2

10 東京2020オリンピック・パラリンピック  
競技大会

あなたは、きっと、誰かの光だ。  
パラリンピック聖火リレーin宮城

県政ニュース

12 台風や豪雨のときには  
警戒レベル4「避難指示」で必ず避難

県政ニュース

13 みやぎの みんなの みらいアクション  
ecoチャレンジみやぎ

県政ニュース

14 第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画

15 おいしいものがたくさん!  
まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(南三陸町・大衡村)

21 県立施設インフォメーション

22 県からのお知らせ

### みやぎの人口(令和3年4月末現在)

住民基本台帳人口	2,276,002人	世帯数	1,023,428世帯
男	1,109,910人	※うち、外国人住民基本台帳人口は21,942人です。	
女	1,166,092人		

今号の表紙

### 世界と繋がる東北の玄関口 「仙台港」

開港から50年、時とともに移り変わる東北・宮城の産業・経済を支えてきた仙台港。その先に大海原を見据え、今日もたゆまず世界との貿易に励みます。



仙台・宮城観光PRキャラクター むすび丸



多世代間の交流でみんなが笑顔になっている



「ボンボンカフェ」ではグループホームの方とも交流を行った



「スマイル」はいつも多くの親子でにぎわっている(現在は新型コロナウイルス感染対策を行い運営)

NPO法人ベビースマイル石巻



# 地域とつながる子育て支援

令和3年度から、今後10年間の県政運営の基本指針となる「新・宮城の将来ビジョン」(以下「新ビジョン」)がスタートしました。  
本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を目指し、政策を推進するための重要な視点である「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、県内の企業・団体などを紹介します。

新ビジョンでは、「政策を推進する4本の柱」と「復興の柱」を掲げています。今回は新たに柱立てした2本目の柱「子ども子育て」から、地域とのつながりを大切にしたい子育て支援を行っているNPO法人ベビースマイル石巻の荒木裕美代表理事にお話を伺いました。

## ―団体設立の経緯は?―

結婚を機に石巻へ、大震災直後に団体設立自身は東京生まれの仙台育ちで、結婚を機に石巻に移りました。当初は知り合いも少なく、地域とのつながりを持てずにいました。その後、妊娠・出産を機にできた友人とイベントに参加する中で自分の居場所を見つけ、次第に石巻での暮らしが楽しくなりました。

そんな中、大震災が発生。復興していく中で、子どもたちの存在は地域の希望であると感じ、地域全体で子どもを育てる環境を作ることが、まちを元気にするのではないかと考えました。そこで、震災直後の2011年5月に任意団体を設立しました。

当初は親たちの交流の場を設けることから始め、次第に口コミなどで活動参加者が増えていきました。子育て中の方々が集うことで元気になり、さまざまなことを学べる場を目指しました。

しかし、任意団体ではできないことも多く、地域に長く根ざした活動にするため、2012年4月にNPO法人格を取得しました。現在は、マタニティ・子育てひろば「スマイル」や子育て世代包括支援センター「らいつ」、石巻市子どもセンター「らいつ」の運営、ファミリーサポート事業など、0歳から18歳まで切れ目のない子育て支援事業を石巻市と連携して行っています。

## ―活動の内容は?―

### 子育て世代の交流サロン「スマイル」

「スマイル」は子育て中の皆さんの声を取り入れて作られました。サロンのリラックスした雰囲気でのコミュニケーションを通して、保護者同士のつながりを作ったり、日頃の悩みなどを相談したりしています。スタッフには子育て支援員や保育士などがおり、コミュニケーションを通して、子育ての尊さ、素晴らしさを伝えていきます。横のつながりを大切に、ニーズに応じて助産師や保健師といった専門家とのパイプ役も担っています。

## ―人づくりで意識していることは?―

### 石巻市唯一の児童館「らいつ」

「らいつ」は、「まちのためになにかしたい」という子どもたちの思いによって作られました。

子どもの権利や参画を理念とした児童館で、子どもたちも会議に参加するなど運営に関わっています。子どもの可能性を引き出す場所として、社会性や主体性を尊重しています。実際に、さまざまな活動に取り組み、大人の情報や経験を手助けとしてたくましく成長していく子どもたちの様子を見守っています。

## ―地域の人々とのかわり?―

### ファミリーサポート

利用会員(子どもを預かってほしい人)と協力会員(子どもを預かることができる人)とのマッチングを行うのがファミリーサポート事業です。こうした地域で見守る仕組みを整備し、盛んにしていくことで、あたたかい地域にすることができると考えています。

## 地域の力を引き出す

ボランティア事業を進めていく上で必要不可欠なのが協力を集めることです。何かしたいと思っている住民は意外にも多く、声を

かけるとたくさんの方が集まってくれます。重要なのは、地域の力をいかにして引き出すかにあると思います。

人々のエネルギーを地域につなげ、協働の質を上げていくことが必要であると感じました。地域全体で子育てをすることは、親のためだけでなく、地域の活性化にもなります。

## 子育て世代のサロンを多世代型に

デイサービスなど高齢の方々との交流を通して、子育て世代以外の地域住民とも関わりを持つことができます。震災直後には仮設住宅でも交流を行いました。周囲を元気にしてくれる子どもの持つ力によって、大人が集まり、交流が生まれ、地域が活性化していくのではないのでしょうか。高齢者の孤立を防ぐためにサロンを多世代型にしていく必要もあると思います。コロナ禍で人と人との距離がさらに離れ、地域との関わりが希薄になっている今、こうした地域の人々との関わり的重要性を改めて感じています。



NPO法人ベビースマイル石巻 代表理事 荒木裕美氏

## ―SDGsで特に意識していることは?― 官民のパートナーシップで 持続可能な子育て支援

市民や子ども、保護者をエンパワーメントして(可能性を引き出し)主体性を高めることや、どんな場所・支援を求めているのか、そのニーズを行政に届けることも私たちの重要な仕事です。行政との対話の場を設け、パートナーシップを築いていくことで、地域とつながる子育て支援を充実させることができると思います。



ママも赤ちゃんもリラックスした雰囲気です。ベビーマッサージ講座を受けている



パパイベント「おひさまフェスタ」での一枚。パパならではの遊びで子どもたちも楽しそう